

## 三原市民と市長の「みらいトーク」(第 17 回) 実施結果

令和 4 年 10 月 28 日

目 的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日 時 令和 4 年 10 月 28 日(金曜日)10 時 30 分から 11 時 45 分

場 所 広島県立三原特別支援学校

参加者 広島県立三原特別支援学校高等部(3 名), 保護者(2 名), 広島県立三原特別支援学校教諭(2 名), 三原市長

・参加者は、広島県立三原特別支援学校高等部 3 年生の生徒代表とその保護者

・広島県立三原特別支援学校進路担当教諭

内容 各項目について市長が質問し、参加者から意見を聴取。

1 就職に向けて、頑張ったところ(努力したことや苦労したこと)

(参加者の意見)

○挨拶すること。報告、連絡、相談ができるよう努力してきた。

○作業学習の接客で、おいしいコーヒーの入れ方を頑張った。最初は全く、コーヒーの知識はなかったが、今はマックスバリューで毎月提供している。将来はカフェをやってみたい。

○目を見て話すことが難しく苦労している。恥ずかしいというのもあるけど、同級生や先生を話すときに目をみることが怖いと感じることがある。

(市長の意見、回答)

○挨拶することによりコミュニケーションが取りやすくなるし、報連相の心がけもすごく大事なことだと思う。

○専門的なことだと思いますが、努力して、おいしいコーヒーを提供しながら、夢に向かって進んでおられることは良いことだと思う。

○それぞれいろんな課題があり、将来に向かって頑張って努力を積み重ねてこられたことは、自信につながっていると思うし、そうやって自信を持つことを卒業後も大切にしてほしい。

2 卒業後に子どもに期待していることや心配なこと。

(参加者の意見)

○真面目に考え過ぎるところや困ったことを相手に伝えられないところがあり、それで体調を崩すことがあるので、体調管理ができるようになってほしい。

○物忘れが多い、集中力が続かない、ルーティーンができない等があり、頑張ろうとする気持ちはあるけど、それが空回りすることや思い込みによりできないのにできると思っているところが心配。

(市長の意見、回答)

○元気であることが大事で、その上で少しずつ成長していければいいと思う。

○真面目過ぎて、ついつい頑張ってしまうこと。確かに頑張ることは良いことかもしれないけど、頑張り過ぎは、逆効果だったりするので、バランス感覚が大事だと思う。また、頑張る気持ちも大事だけど、できることできないことは、誰にでもあるので、周りに理解して貰うことが大事なので、コミュニケーションを取りながら働くことも必要だと思う。

3 先生は、生徒さんのこれまでの学校生活を見てきて、感心することとか期待することや心配なこととかありますか。

(参加者の意見)

○素直な生徒が多く、課題を一つ一つクリアしていくことに成長を感じられることが嬉しい。一方で、今後に期待をしている分、卒業後に就職先で頑張り過ぎてないか、忘れ物をしていないか、コミュニケーションは上手く取れているだろうか心配がある。卒業後、困らないようにしっかり指導していきたい。

○この学校の生徒を見ているとすごく伸びしろがあり、将来への可能性をととても感じている。彼らの特性として、一つのことにものすごく集中できる場所や少し支援があれば、できるようになることが沢山ある。これからは勉強や様々な経験をする機会を確保していきたい。心配なのは、卒業後の長い人生をどう過ごしていくか、やはり継続的な支援環境がないと難しい面があると思う。

(市長の意見, 回答)

○伸びしろをしっかり伸ばしていくことは、すごく大事だと思う。学校を卒業した後、人生の色々なフェーズで環境も変わるので、適切な支援が受けられるよう三原市がしっかりと考えていきたい。

4 企業側(会社, 事業所)働く場に求めることは何か。

(参加者の意見)

○障害特性により、コミュニケーションに課題があり、ちゃんと伝えることができるか不安になる。そのことを企業側にも理解して欲しい。障害特性によって、支援の仕方にも違いがあり、その特性等を企業側に説明することが難しかったりするので、企業の負担が少しでも解消するようなものがあると良い。札幌市には、発達障害の特性をわかりやすく漫画にした「職場で使える虎の巻」というものがあるので、三原にもあると良い。

○職場の人は、理解しようという気持ちや理想があっても、現実的には支援という負担が増えてしまう。そこをジョブコーチやサポート支援といった職場定着をアドバイスしてくれる外部支援を活用することで客観的な視点で安定するまでの支援ができると思う。また、職場に相談できる環境があって、話を聞いてくれるだけでも良い。

○20年前と比べ、一般就労を希望する生徒も受入れる企業も増えたが、障害者雇用を断る企業もまだまだ多くあり、取り組みのない企業に就職しても障害を理解していなければ、生徒が苦しみ、長続きしない。また、就職後の定着が難しく、支援機関もあるが支援がまわらない実態もある。障害者雇用を推進するためには、企業の理解・啓発も必要だが、企業が相談できると

ころや企業をサポートする体制が必要だと思う。仕事の切出しができて、そこに障害特性にあった仕事がマッチングできれば良いと思うので、企業に学校の取り組みや生徒の状況をみてほしい。そうすれば、どんな仕事ができるか考えるきっかけになり企業開拓に繋がるかもしれない。企業が、全国の好事例等を参考に取組んでほしい。

○アルバイトは就労に向けた良い経験になると思う。一般校では郵便局でアルバイトしているとか聞かすが、障害のある人のアルバイトは見つからない。放課後は無理だが、長い休みの期間だと、やってみたいと思う。

○卒業していった先輩たちの話を聞くことで、就職に対するイメージができるので、大変参考になる。

○企業がほしい人材が分かっているならば、それに向かって、考え頑張っていけると思う。

○福祉的就労も大事な進路と捉えているが、三原には、就労継続支援 A 型がなかったり、就労移行支援の事業所が少なかったりだと選択肢が狭くなる。また重度障害や医療的ケアが必要な生徒の対応できる社会資源が少ない。また、お金の管理ができないことや親なき後のこと等、卒業後は支援がなくなるので心配。

○放課後デイサービスを利用しているが、卒業後は、児から者の福祉サービスに変わることになる。コミュニケーションに難しさがあるので、新たな関係づくりに心配がある。

(市長の意見、回答)

○就職して、本人や企業が困らないようにすること。そのためには、企業側の理解・啓発を促進することが重要と捉えている。障害特性に対して知識がなければ、戸惑うことになるだろう、そこにある程度、知識や対処法を準備しておけば対応することができると思うし、それをわかりやすい手法で理解を推進することは大事なことである。理解する人が沢山いることは、安心につながることで、三原市でも取組んでいきたい。

○成功事例を共有することで上手くいくこともあるかも知れない。アルバイトは、ファーストステップとして良い経験になると思うし、就労体験する機会があれば良い。また、企業が学校を訪問し、様子を知ってもらい雇用につながるきっかけになると良い。行政が商工会議所や経済界と連携して、理解を深めていくことやマッチングを進めていくことはできる。

○皆さんが安心して、働き続けられるよう、支援を切らさないよう、しっかりと意見を聞き、関係機関と連携しながら、働きつづけられるまちを皆さんとともにつくっていききたい。